

経済学II(2)

（貨幣資本と現実資本の関係を検討する）
中央銀行とバジョット
（準備金の意義を検討する）

4. 貨幣的経済理論の系譜

北欧学派

（利子間隔説を検討する）

オーストリア学派

（貨幣の譲渡可能性、貨幣の非国有化などを検討する）

ケインズ

（流動性選好、ルールと裁量について説く）

なお、必ずしも上記計画通り進まない場合がある。
（授業回数はフィードバックを含め全15回とする）

【履修要件】

経済学（大黒担当）の連続した履修が望ましい。

【成績評価の方法・観点】

期末試験の成績による（レポート試験の場合はその旨授業で指示する）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

大黒弘慈 『模倣と権力の経済学：貨幣の価値を変えよ（思想史篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253208

大黒弘慈 『マルクスと賃金づくりたち：貨幣の価値を変えよ（理論篇）』（岩波書店）ISBN:978-4000253215

その他、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

比較的早い時期に、経済学史を通覧した簡便な本を通読しておくことが望ましい。経済学史上の古典を一つ選び、講義の進行とともに読み進めると学習効果が上がる。

【その他（オフィスアワー等）】

詳細な授業計画を、初回に配布する予定である。

【主要授業科目（学部・学科名）】

総合人間学部